

高温に伴う農作物等の管理対策

令和8年7月3日
新潟県農林水産部

新潟地方気象台が7月2日に発表した高温に関する早期天候情報（北陸地方）では、7月8日頃からかなりの高温が予想されています（5日間平均気温平年差+2.7℃）。また、同日発表の1か月予報（7/4~8/3）では、向こう1か月の気温は高く、特に期間の前半はかなり高くなる可能性があるとしてされています。

ついては、以下の管理対策を参考にして、農作物等の管理に十分留意してください。

併せて、農作業時には、こまめな水分・塩分補給や適切な休憩を心掛け、熱中症の予防に努めてください。

1 水稲

- (1) 中干しは乾かし過ぎに注意し、遅くとも出穂期の1か月前までに終了する。中干し終了後は、徐々に水を入れ、飽水管理に移行する。
- (2) ケイ酸が不足している地域や、春にケイ酸入り資材を施用していないほ場は、高温の影響を軽減するため、出穂期40日前から1回目穂肥の時期までにケイ酸質資材を施用する。
- (3) 高温により出穂期は平年より早まると予想されるため、ほ場・品種ごとに幼穂長や幼穂形成期を確認し、穂肥を遅れずに施用する。コシヒカリの1回目穂肥は、幼穂形成期に穂肥診断を行い、量と時期を判断し施用する。

2 大豆

高温・干ばつ時に、すみやかにかん水や排水ができるよう、明きよと排水口等との接続を事前に点検・補修する。

3 園芸全般

- (1) 高温により生育が早まる可能性があるため、各種管理作業を適期に行えるよう早めに準備する。
- (2) 気温の上昇に伴い、施設ではコナジラミ類、アザミウマ類、ハダニ類、露地ではアブラムシ類、ヨトウガ類などの害虫が増加するおそれがあるので、病害虫発生予察情報に留意し、早期発見に努め、発生状況に応じて適期に防除する。
- (3) 高温と曇雨天・多湿により病害が発生しやすくなるため、ほ場をこまめに観察し、適切に薬剤を散布する。なお、高温時の薬剤散布は、薬害が発生するおそれがあるため、朝・夕の涼しい時間帯に行う。
- (4) 施設栽培は、遮光・遮熱資材の被覆や塗布、換気及び循環扇による送風等で温度上昇を抑制する。
- (5) 高温時は吸水量が増加するため、土壌や用土の乾燥や水分状態に注意するとともに、日中にしおれないよう、必要に応じてかん水回数を増やす。

4 野菜

- (1) トマトは、着果負担による葉先枯れなどの症状がみられると、枯死部位から病害が発生しやすくなるため、枯死部や罹病部を除去した後、薬剤防除を行う。
- (2) すいかやメロンなどのトンネル栽培では、ビニールのすそを大きく開け急激な温度上昇を抑える。
- (3) ねぎの高温時の土寄せは、軟腐病や葉先枯れなどが発生しやすくなるため、行わない。

5 果樹

- (1) 高温により生育が早まる可能性があるため、生育進度を把握し、袋掛け、仕上げ摘果、新梢管理などの管理作業は、生育ステージに合わせ適期に行う。
- (2) ぶどうなどの施設栽培は、ハウス内の高温により生育障害が発生しやすいので、換気により適切に温度・湿度を管理する。
- (3) 高温や高日射により骨格枝の日焼けを生じることがあるので、骨格枝背面の徒長枝は適宜残し、日焼け防止に努める。

6 花き

(1) 球根類

- ア チューリップ等球根類の掘取り後の初期乾燥や調整後の本乾燥では、高温多湿による球根腐敗病等を防止するため、通風等により乾燥庫内の温湿度をできるだけ下げる。
- イ チューリップ切り花の年内出荷向け球根は、高温を避けて花芽分化を促進するため、可能であれば、調整後準備が整い次第、中温処理(20℃涼温保管)する。その際は、エチレン障害を防止するため定期的に換気を行う。

(2) 露地切り花類

抑制ユリ切り花栽培では、植付け前に芽伸ばし・順化处理を十分に行うとともに、植付け後は地温や気温の低下を目的に敷わらや適切な遮光管理を行う。

(3) 施設切り花・鉢花類

- ア 高温多湿・日照不足による軟弱徒長を防ぐため、天候に応じた適切な遮光管理とかん水管理を行う。
- イ オリエンタル系ユリ切り花では、高温期の採花において出荷前の予冷温度が低すぎると花しみ障害が発生しやすいので、予冷温度は10℃程度で行う。

7 畜産

- (1) 急な気温上昇に伴う家畜疾病を予防するため、換気や送風、寒冷紗及び屋根への遮熱塗装等の暑熱対策は事前に行う。特に、換気扇や送風機は掃除、注油、ベルトの張りや電気系統などの点検を行い、稼働を確認しておく。
- (2) 畜舎は風通しを良くするため、野生生物や塵埃などによる病原体の侵入防止対策を行った上で、開口部は可能な限り開放するとともに障害物は除去する。
- (3) 家畜の体感温度を低下させるため、送風機は設置高や傾き角度を調整し、畜体に直接風をあてる。また、牛は毛刈りも有効である。

- (4) 飼槽や飲水設備をこまめに清掃・点検する。また、家畜の様子をよく観察し、食欲低下を防ぐため、良質な飼料と常に新鮮な飲水を与える。
- (5) 高温時は、家畜のミネラルやビタミンの要求量が増え、また、重曹はルーメン緩衝剤として有効なため、これらの慣らし給与を始める。ただし、乾乳牛への重曹の給与は避ける（低カルシウム血症や乳房浮腫のリスクが高まるため）。

8 きのこと

- (1) ハウス内の高温による生育障害を防ぐため、空調設備のない施設は、換気等により適切な温度に管理する。換気をする場合は、害菌・害虫の侵入防止対策を行う。
- (2) 害菌の早期発見に努め、汚染された菌床は速やかに撤去する。
- (3) 高温下では、きのこの品質低下が著しいので、適期に収穫する。
- (4) 収穫したきのこは、速やかに保冷库等で保管する。
- (5) 露地栽培では、通風確保や散水などによる温度・湿度管理に努める。
- (6) 仮伏せ中のほだ木をシート等で被覆している場合は、通風、日除け、散水などにより温度を管理する。
- (7) 生産現場の巡回回数を増やし、異変の早期発見に努める。

9 漁業全般

養殖では、水温の上昇や水質の悪化に留意し、適切な水温・水質を維持し、養殖物の管理に十分注意する。

農作業中の熱中症を予防しましょう!!

1人で作業されている方には、「水分や休憩を取っていますか」、「体調は悪くないですか」など、周囲からの積極的な声かけをお願いします。

暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



こまめな休憩と水分補給

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



単独作業は避ける

複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



熱中症対策アイテムの活用

帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



出典：農林水産省「熱中症対策パンフレット」より